



# なかましんぶん

H30年10月1日 VOL91 小川和代



運動会、お疲れ様でした。遂に初の「お弁当タイム」のある運動会のはずだったのに、初の室内運動会となり、お弁当の準備もしていただき楽しみにしてもらっていた事を思うと残念なのですが、子ども達の太陽のような輝きが残念な心を晴らしてくれました。変更柔軟に対応いただき、朝から最後までお手伝いなどにもご協力いただき、本当にありがとうございました。

## 時の流れの一コマ

人の成長はすべてがつながっていて、経験を通して、総合的に、全面的に学び成長していきます。「楽しかった」「悔しかった」「困った」「緊張した」「嬉しかった！」心を動かして身についた経験は決して忘れません。運動会のような行事ではそれがつぶさに見て取れます。0歳児や1歳児クラスのこども達も、9月は「運動会」という言葉をたくさん聞きながら過ごしました。「うんどうかい」が何たるものかが分かったのは多分当日。あの楽しい日常の雰囲気の中で、先生が語ってたのはこれ～?! ちょっと待って、聴いてないよ～、予想外!! そう、知ってたのは日常で、実際に運動会の経験をした記憶がないから日常で聞いていた運動会という言葉と本当の運動会がつながっていません。2.3歳になると、本番のイメージを持って、パパ、ママが観に来てくれることを楽しみにしながら、練習する姿が見られます。とっても上手に演目を表現できるようになりますが、本番になるとプレッシャーを感じる子、張り切る子! 練習の姿とまた一味違った姿が見られます。こうして、一人一人の中に0.1歳では残らなかった「うんどうかい」の経験がそれぞれの思いとして記憶に残っていきます。0.1歳のおぼつかないような頃からの経験や記憶があるからこそ、それが土台となり4.5歳になると、「うんどうかい」で自分がどうするか主体的に考えられるようになります。

また、0.1歳の時にも、2.3歳の時にも、みんなで同じ経験を通して知っていくことは、仲間づくりそのものです。まだ、「なかま」という言葉さえ知らず過ごしている時でさえ、いつもそばに「なかま」がいます。4.5歳になると「旧知のなかま」と協力し一致団結する楽しさ、同じ目標を持つ協同意識を持ちえます。すべて教えによるものではなく、経験によって「自ら感じたこと」により身につけていきます。仲間がいてこそ育ち合いですね。

勝敗がもたらすもの、どちらも意義深い物があります。勝ちからは、達成感、自信、仲間への信頼感などなど・負けからは、悔しさ、そこから気持ちを立て直し次へ向かう心持などなど・どちらも経験からしか得られない心の成長です。どんな経験もその人を作っていく大切な営み、その経験の豊かさが人を豊かにしていきます。こどもが喜ぶ時一緒に喜び、こどもが悔しい時一緒に悔しさを共有し、こどもが困った時、緊張した時は見守り、決してその経験を大人が解決してしまわないことで、0.1歳のように頼りなく見える小さな時から子ども達は自分で自分を育てていく経験にちゃんと向き合っていきます。この力がどんどん育つことで、もっと大きな悔しさや困難を自ら乗り越え喜びを味わうという「人生＝時の流れの一コマの連続」の主人公になり一人で歩いて行く力、人と関わり合う力をつけていくのです。その力が備わるまでの間の伴走者が私たち大人です。主人公の経験を奪わないよう、楽しい時も苦しい時も伴奏していきましょうね～!! 経験の1コマ1コマの連続だけが本当の力になっていきます。